

太田洋愛と オオタザクラ

増山禎之（田原市博物館館長）



太田洋愛が描いたオオタザクラ

愛知県立成章高等学校創立百二十周年記念事業 オオタザクラ植樹式 配付資料
令和三年四月三十日（金）



成章中学校時代



県天然記念物指定の1972年に本覚寺住職（右）と



太田洋愛

太田洋愛(1910~1988)は、成章高校の前身成章中学校の卒業生で、日本のボタニカルアート(植物画)の草分け的な存在です。

太田洋愛は本名を保といい、成章高校の近くで生まれ、小さなころから絵を描くことが好きな少年でした。卒業後、当時の満州に渡り、満州教育専門学校植物学教室で「はす博士」大賀一郎博士に植物画を学びました。

終戦後、シベリアに抑留され、帰国後は東京に出て、教科書や百科事典に掲載する植物の原画を手がけながら、日本山林美術協会、日本理科美術協会の創立などに携わり、植物画を美術作品となるような活動も進めました。1970(昭和45)年にはついに日本ボタニカルアート協会を創立させました。また、春になると、沖縄から北海道まで日本各地を巡り大好きな桜を描きました。そして、その旅の途中、岐阜県白川村本覚寺で新種の桜を発見しました。オオタザクラは紫赤色の花びらが多

い菊咲の桜です。この新種の桜を大井次三郎博士は、発見者の洋愛を称え「オオタザクラ」と命名しました。誰も気付かなかった新種が、ひとりの植物画家によって発見されたのでした。

この成果は大井博士との共著で1972(昭和47)年に図譜『日本桜集』にまとめています。また『原色日本のラン』、『原色図譜園芸植物』などの原画、『太田洋愛画集』など数多くの著作で知られています。

洋愛の作品のすばらしさはもちろん、自分の夢をかなえるため満州に渡った決断力、ボタニカルアートを芸術作品として世に認めさせた行動力、何よりも好きなものに集中する純粋さ。これら洋愛の生き方に、これからの人生で学ぶことがたくさんあります。

田原市博物館では10月2日~11月28日の日程で、太田洋愛展を開催します。私たちの先輩の魂のこもった作品は見ごたえ十分です。



コスモス①



チューリップ①



シクラメン②

①『原色図譜園芸植物』(露地編)1971年 平凡社、②同(温室編)1977年 平凡社



『趣味の園芸』 1975年6月



『趣味の園芸』 1976年2月

Note



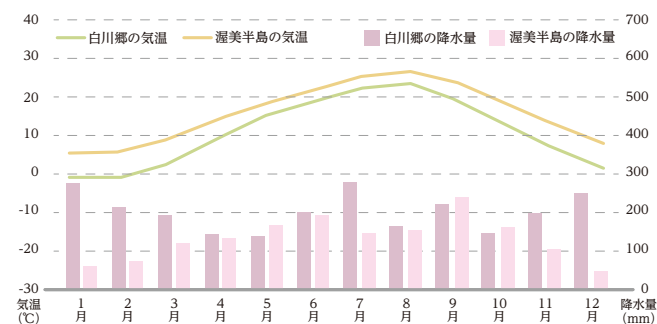
成章高校の
オオタザクラ

オオタザクラは世界遺産白川郷にある本覚寺(岐阜県大野郡白川村荻町)で、1969(昭和44)年5月に発見されました。花は大きく直径4~5cmのものもみられます。葉の表面や小さい枝には毛があり、雌しべの数も20個ちかく、花弁も100枚以上あり、雌しべの塊が花弁から飛び出しているような特徴のある形状です。現在でも、本覚寺の境内には、岐阜県指定天然記念物と白川村指定天然記念物のものがそれぞれ1本ずつあります。

白川郷は1995(平成7)年にユネスコの世界遺産リストに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として記載されました。集落景観の特徴として、大型の茅葺き屋根の合掌造り民家が59棟も建ち並び、周囲には田畑が展開し、その外側の山林は広葉樹林です。

地形は庄川が作った南北に細長い三日月形の谷底平野で、3,000m級の高峻な山脈に挟まれた場所です。集落は標高約500mの段丘面上の平坦地にあり、ここが生活の舞台となっています。

気候は内陸性気候区に属し、冬の降水量が多いのは積雪のためで、過去の極値は「昭和56年豪雪」の2,174cmでした。気温は1月が-1.1℃と低くなりますが、8月は23.5℃と上昇し、中央高地の特徴を示しています。



白川郷と渥美半島の気候の比較

気温と降水量のデータは気象庁の掲出するデータで、ともに1981-2010年の30年間の観測値の平均(平年値)です。白川郷のものは「岐阜県白川」を、渥美半島のものは「愛知県伊良湖」を使用しました。

